

# 緊急消防援助隊情報

## 平成25年度地域ブロック合同訓練の実施結果について

広域応援室

### 中国・四国ブロック 徳島県実行委員会

平成25年度緊急消防援助隊中国・四国ブロック合同訓練は、地域の特性を踏まえ、「実践的な訓練の推進を図るため、訓練想定等の一部を事前に明らかにしないブラインド型訓練及び複数の会場で分散並行型の訓練を実施するとともに、自衛隊、海上保安庁、警察等の防災関係機関や医療機関・DMAT等との連携を推進する。」という基本方針の下、消防機関134隊493名、関係機関179名の参加により、徳島県において次のとおり実施しました。

#### 1. 実施日

平成25年11月2日（土）・3日（日）

#### 2. 実施場所

徳島市、阿南市、海陽町、北島町、那賀町



部隊投入訓練（徳島飛行場）

#### 3. 実施内容

##### (1) 訓練想定

平成25年11月2日（土）午前9時00分頃、徳島県阿南市を震源とする地震が発生し、阿南市及び海陽町では震度6強を観測するとともに、徳島市及び小松島市においても震度6弱を観測した。

震度6強を観測した阿南市及び海陽町では、建物の倒壊や土砂崩れ、道路や電気等のライフラインが寸断する被害等が多数発生した。

その後、海陽町沖を震源とする余震が発生し、沿岸部には大きな津波が押し寄せて甚大な被害が発生し、徳島

県内の消防力では対応が困難なため、緊急消防援助隊の応援を要請する。

##### (2) 応援要請等情報伝達訓練、消防応援活動調整本部、警防本部及び指揮支援本部設置運営訓練

地震発生後直ちに、徳島県庁に消防応援活動調整本部を設置するとともに、阿南市（阿南市消防本部）及び海陽町（徳島県立南部防災館）に警防本部及び指揮支援本部を設置し、応援要請等の情報伝達訓練を実施した。また、各会場において、支援情報共有ツール等を活用した応援部隊の配備、ヘリテレ電送システムを活用した災害情報収集、関係機関との調整等を主眼とした図上訓練を、ロールプレイング方式で実施した。

##### 《今後の課題等》

- 応援部隊が効率的かつ効果的に活動ができるように、受援側としての任務の明確化、関係機関との運用調整の検討が必要である。
- 消防応援活動調整本部の運営にあたり、通信の確保が必要である。また、関係機関及び応援部隊に対して、統一した地図の提供等の配慮が必要である。
- 災害情報収集訓練では、関係機関との連携により、安定した画像伝送が実施することができたが、ヘリテレは地形等により、画像伝送範囲に限りがあることから、安定した映像の伝送を可能とするヘリサットシステムへの設備更新への検討が必要である。



消防応援活動調整本部等設置運営訓練（徳島県庁）



### (3) 部隊参集訓練及び後方支援活動訓練

迅速出動要綱区分Ⅱにより出動した香川県先遣隊については、ヘリコプターによる部隊投入訓練を実施し、受援消防本部との合同訓練を実施した。愛媛県、高知県及び兵庫県の先遣隊については、解体中の病院施設を活用し、県内応援隊との合同訓練を実施した。

先遣隊を除く緊急消防援助隊については、進出拠点を徳島県消防学校とし、後方支援活動訓練及び夜間訓練を徳島県南部健康運動公園で実施した。

後方支援活動訓練では、無線中継車及び可搬型衛星地球局を活用し、活動報告を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 今回の訓練を踏まえて、ヘリベースが運用できない場合の検討を行う必要がある。



無線中継車を活用した活動報告（徳島県南部健康運動公園）

### (4) 津波漂流者救出訓練（他機関との連携訓練）

海上自衛隊航空機（固定翼）による津波被害状況調査、海上に停泊中の海上保安庁大型巡視船への防災ヘリによるDMA Tの投入、巡視船内に洋上救護所の設置、各機関のヘリコプター（海上自衛隊・海上保安庁）による海上漂流者の救出及び傷病者の洋上救護所搬送訓練を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 他機関との連絡手段を確保するため、連絡用無線の整



津波漂流者救出訓練（阿南市富岡港）

備など、通信の確保を行う必要がある。

### (5) 部隊運用訓練

「東南海・南海地震における緊急消防援助隊アクションプラン」を一部準用し、指揮支援部隊長として北九州市消防局並びに指揮支援隊長として広島市消防局及び岡山市消防局の部隊管理の下、津波による孤立者救出訓練や中高層建物救出訓練、大規模街区及び危険物火災対応訓練など9項目の訓練を実施した。

部隊運用訓練に係る活動指示については、1日目の夜間に実施した活動ミーティングにおいて、災害情報収集活動時に撮影された航空写真及び活動指示書に基づき、指揮支援隊長が行った。

#### 《今後の課題等》

- 無線の輻輳等により連絡調整に支障をきたしたことから、緊急消防援助隊動態情報システムや携帯電話など、多重的な通信の確保が必要である。
- 部隊運用訓練では、消火部隊、救助部隊、救急部隊等、それぞれの部隊に対し任務が課せられることになり、訓練内容によっては限られた部隊での活動を余儀なくされる場合があることから、様々な災害に柔軟な対応ができる隊員の育成が必要である。



夜間訓練（徳島県南部健康運動公園）

## 4. おわりに

今回の訓練は、北九州市消防局、佐賀広域消防局、兵庫県隊、中国・四国地区各県の緊急消防援助隊62本部108隊、徳島県内応援隊、陸上自衛隊、海上自衛隊、徳島海上保安部、徳島県警察、DMA T、ノイマンドッグスクールその他関係機関の皆様の御協力により、事故なく無事終了できましたことに心から感謝申し上げます。

今後は、本訓練での成果や課題をもとに、受援体制の充実強化に取り組んでいきたいと考えております。

#### 問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室 高池  
TEL: 03-5253-7527（直通）